

13

総合問題

■学習日

/

1 次のそれぞれの問いに答えなさい。

□(1) 次の文の「妻は」という主語に対する述語を、——線部から二つ探し、記号で答えなさい。

妻は、ぐらぐらと煮立った鍋の中に、湯がこぼれないよう慎重に野菜を放り込みながら、皿を適当に洗う娘と、その隣でおろおろする長男にも指示を出し続けたので、私がやるべきことはおよそ何一つとしてなかった。


(2) 次の①・②の文の——線部の文節どうしの関係と同じものを、あとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

□① そこは静かで平和な村だった。

□② ふつさりとたれた一かたまりのぶどうが見える。

ア 雨の降る晩だ。

イ 盛んに燃える火だ。

ウ 寒かったので、行かなかった。

エ 子供が眠っている。

オ 人々は、振動や騒音に苦しんだ。

①
②

□(3) 次の文の——線部の動詞の活用形の名称をそれぞれあとから選び、記号で答えなさい。

〈さくらは春咲くわが国の代表的な花だ。人はさくらが咲けば、それを③見て楽しむ〉

ア 未然形    イ 連用形    ウ 終止形

エ 連体形    オ 仮定形    カ 命令形

①
②
③

□(4) 次の文章の——線部から形容詞を二つ選び、記号で答えなさい。

「アこんなことも知らないなんて、ウまったく恥ずかしい。これは、先生が教えてくれたオ、私が知ろうとし、キなかつたことによるものだと思う。無知は罪悪だと言うが、今日、クつくづくそれを思い知らされた。」


(5) 次のそれぞれの文の——線部から連体詞でないもの一つずつを選び、記号で答えなさい。

□① 人口が三千しかないアわが町にも、イさる人のお力によって、ウりっぱな図書館が完成した。

□② トンネルといえば、私たちは、汽車の通る、アのイ大きなトンネルを連想するが、ウこのトンネルは非常にエ小さいものである。

□③ ア来る九月五日に、イその裁判の判決が出るが、ウそれは、世間の注目を浴びている。

①
②
③

□(6) 次のそれぞれの文の——線部から副詞を三つ選び、記号で答えなさい。

ア 急に春らしくなった。

イ もっと早く来ればよかった。

ウ 静かに歩きなさい。

エ 様子を詳しく話してください。

オ さあ、すぐ話しなさい。

カ 君は、また遊びに行くのか。


2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。



仕儀Ⅱなりゆき。結果。

□(1) — 線㉞㉟の漢字の読み方をひらがなで書いて答えなさい。

㉞
㉟
ウ

□(2) に入る最も適切なことばを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 大胆不敵    イ 意気消沈  
ウ 疑心暗鬼    エ 得意满面

□
---

□(3) ㉞・㉟にそれぞれ二文字以内の適切な漢字を入れ、慣用句を完成させなさい。

㉞
-----
㉟
-----

□(4) — 線①「肝に銘じて」、②「芝居がかり」の意味として最も適切なものを、それぞれ次から選び、記号で答えなさい。

- |    |   |          |   |           |
|----|---|----------|---|-----------|
| □① | ア | しっかり理解して | イ | 深く感謝して    |
| □② | ウ | 軽い身のこなし  | エ | 忘れないようにして |
|    | ア | 落ち着いた様子  | イ | ゆっくりとした動き |
|    | ウ |          | エ | 大げさな動作    |

①
②

□(5) ①には次のそれぞれの文が入りますが、どんな順序で入れたらよいですか。あとから最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ㉞ これはどうしても遊ぶということではない。  
㉟ 思えば、生き物である限り、捕られる危険はだれの身にもありうることではないか。

㉟ すなわち、閉じ込められたということではないか。

㉞ 危険を踏まえつつ、時には水にくぐり、時には岩に甲羅こうらを干し、思うままなることを得たのは、それが自由といえはいえないこともなかった。

〔石川淳「前身」より〕

〔注〕小柄Ⅱ刀のサヤの外側にさす小刀。

⑤ しかるに、いま遊びうるところは、大橋より上下たった五町の間と、仁政の棒ぐいに足止めをくわされている。

ア ⑤ ↓ ④ ↓ ③ ↓ ② ↓ ① ↓

イ ⑤ ↓ ④ ↓ ③ ↓ ② ↓ ① ↓

ウ ⑤ ↓ ④ ↓ ③ ↓ ② ↓ ① ↓

⑥ ② に入る最も適切なことばを本文中から漢字二字で書き抜いて答えなさい。

⑦ —線③「敵の人間の陰険な仕打ち」とありますが、これは具体的にはどんなことを指していますか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア サムライがすっぽんと約束して、淀の川底から小柄を取って来させたこと。

イ サムライがすっぽんと約束を守って、彼を自由の身にしてやったこと。

ウ 領主が制札で、淀の大橋上下五町の間に限らずっぽんの安全を保障したこと。

エ 領主が禁制の立て札によって、思惑おもむくどおりに仁政の評判を世間に広めたこと。

3 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。



(注) ベネディクトさんⅡルース・ベネディクト(1887~1948)。

アメリカ合衆国の文化人類学者。日本文化について論じた『菊と刀』の著者として知られる。

三等車Ⅱ旧日本国有鉄道で、客車に三つの等級があった頃の最下級の車両。

〈金田一春彦「日本語の特質」より〉

□(1) ①・②に入る最も適切なことばを、それぞれ次から選び、記号で答えなさい。

ア ただし イ しかも ウ つまり  
エ あるいは オ なせなら カ たとえば

①
②

□(2) ー線①「物のやりとりを表す動詞に限ってこのように変化をします」とは、物のやりとりを表す動詞が何に応じて変化することを指していますか。本文中から九字で書き抜いて答えなさい。


□(3) ー線②「これが日本人の特色だそうであります」とありますが、「これ」が指している日本人の特色として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 日本人は、他人から物を贈られることに対して心苦しさを覚えるということ。

イ 日本人は、相手に苦しみを長く与えたい場合、その相手に物を贈るということ。

ウ 日本人は、縁も何もない人から物を贈られる機会が少なく、慣れていないということ。

エ 日本人は、見知らぬ相手から物を贈られることに警戒心を抱きがちだということ。

--

□(4) ——線③「お返し」とありますが、その具体例として、筆者は、自分が何をして、どういってお返しをされることを挙げていますか。三十字以内(句読点も字数に数えます)で書いて答えなさい。


□(5) ——線④「他人に物を贈る場合に、日本人らしいあいさつが生まれます」とありますが、このあいさつは、物を贈る相手にどういうことを伝えていきますか。「ということ」に続く形で、本文中から十四字でさがし、その最初と最後の三字を書き抜いて答えなさい。


ということ

□(6) 本文中で述べられている内容に合っているものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 物を与えて自分が損することを気にかける日本人の気質が、物のやりとりに関する言葉遣いに表れている。
- イ 他人から物をもらうことに重圧を感じる日本人の社会では、その重圧を少しでもやわらげようとする習慣がある。
- ウ 日本人の社会には、地位や立場の上下などの格差があり、そこから敬語のような独特の言葉遣いが生まれている。
- エ 日本人は、物を贈られてうれしいという気持ちを率直に表すのが苦手
- オ で、言外に相手へ感謝の念を伝えている。

--

## 4 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

人の心すなほならねば、<sup>＊</sup>偽り<sup>①</sup>なきにしもあらず。されども、<sup>＊</sup>おのづから、<sup>＊</sup>正直の人<sup>＊</sup>などかなからん。おのれすなほならねど、人の賢<sup>げん</sup>を見てうらやむは尋常<sup>よつね</sup>なり。いたりて愚かなる人は、たまたま賢なる人を見てこれを憎む。「おほきなる利を得んがために、少しきの利をうけず。偽りかざりて、名を立てんとす」とそしる。おのれが心にたがへるによりて、<sup>＊</sup>この嘲<sup>あざわら</sup>をなすにて知りぬ。<sup>②</sup>この人は<sup>＊</sup>下愚<sup>かぐ</sup>の性<sup>さう</sup>うつるべからず、<sup>＊</sup>偽りて小利をも辞すべからず。かりにも<sup>＊</sup>賢を学ぶべからず。

狂人のまねとて、大路<sup>おほち</sup>を走らば、則ち<sup>すなは</sup>狂人なり。悪人のまねとて、人を殺さば悪人なり。<sup>＊</sup>驥<sup>き</sup>を学ぶは驥のたくひ、<sup>＊</sup>舜<sup>しん</sup>を学ぶは舜<sup>しん</sup>の徒<sup>たご</sup>なり。<sup>③</sup>偽りても賢を学ばんを賢といふべし。

〔吉田兼好「徒然草」第八十五段〕

(注) 偽り<sup>①</sup>見せかけだけのもの。

おのづから<sup>②</sup>まれには。

正直の人<sup>③</sup>真の賢人。

などかなからん<sup>④</sup>どうしてなかるうか、必ずやいるのである。

この嘲<sup>⑤</sup>をなすにて知りぬ<sup>⑥</sup>このようなあざけりのことばを賢人に加えるので、(次のことが)わかるのである。

下愚<sup>⑦</sup>の性<sup>⑧</sup>うつるべからず<sup>⑨</sup>愚かな生まれつきで、とうていよいほうに移る見込みがなく。

偽りて<sup>⑩</sup>見せかけだけでも。

賢を学ぶべからず<sup>⑪</sup>賢を学ぶ(まねをする)ことができない。

驥<sup>⑫</sup>一日千里を走る駿馬。

舜<sup>⑬</sup>中国太古の聖人。

□(1) — 線①「なきにしもあらず」の意味として最も適切なものを、次から

選び、記号で答えなさい。

ア あつてはいけない イ ないわけではない

ウ ないはずがない エ あるとはいえない

□(2) — 線②「この人」とは誰のことですか。本文中から九字で書き抜いて答えなさい。

□(2) — 線②「この人」とは誰のことですか。本文中から九字で書き抜いて答えなさい。

□(3) — 線③「偽りても賢を学ばんを賢といふべし」とありますが、この意味として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 見せかけで、賢人のまねをする人を賢人というのは間違いである。

イ 見せかけで、賢人のまねをする人が、賢人と思われてしまうことがある。

ウ 見せかけにせよ、賢人のまねをする人を賢人というのは至当なことである。

エ 見せかけだけで、賢人ぶることは慎まなければならないことである。

□(3) — 線③「偽りても賢を学ばんを賢といふべし」とありますが、この意味として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。